

ほっと



緩和ケア病棟

「あなたらしさ」を支える

第3号

掲載内容

- 進化する糖尿病センター
- 採血された血液はどうやって検査されるの？

「あなたらしさ」を支える 緩和ケア病棟

「緩和ケア」という言葉をご存じでしょうか。
がんなどの病気によって生じる、様々な
痛みや苦しみを和らげ、その人らしい生活を送れるようにサポートをすることです。
本院では緩和ケアを専門に行う病棟があり、
チーム医療で患者の皆様とご家族を支えています。

この病棟では、痛みのコントロール・軽減を主に行い、
症状が落ち着いたら、退院して自宅に帰ることもできます。
病気による「つらさ」は、身体的な苦痛だけではなく、
精神的な面や社会的な面など、
様々な要因が絡み合っています。
複雑な「つらさ」を抱える患者の皆様とご家族に寄り添い、
支えていくことが、緩和ケア病棟の役割です。

緩和ケア病棟ホール

ソファ・ダイニングセットなどを設けており、
ご自由にお過ごしいただけます。

病床はすべて個室

緩和ケア病棟は最上階の7階にあります。ベッドは全部で20床あり、すべて個室です。
特別室が2室、有料個室が8室、無料個室が10室あります。

面会の制限はありません

患者さんとの面会は24時間可能。付き添いもしていただけます。ご家族のケア面での
負担を軽減しながら、自分の家にいるようにゆったりとした時間を過ごすことができます。

患者の皆様とご家族をチームでサポート

本院には緩和ケア専門医のほか、緩和ケア認定看護師・がん疼痛認定看護師などの資格を
持つスタッフがいます。また、各分野の専門家がチームとなり、連携して患者さんを支えます。

医師 看護師

ケアに向けた、多
職種間の全体的
なコーディネート

MSW

(医療ソーシャルワーカー)

経済面・生活面で
の相談や公的制
度の利用調整

臨床心理士 臨床宗教士

精神面の苦痛や
悩みに対するケア

薬剤師

痛みをコントロ
ールする薬の管理や
副作用の予防

管理栄養士

患者さんの状況に
あった食事や栄養
面のサポート

理学療法士 作業療法士

からだの機能を維
持するためのリハ
ビリを実施



病室(無料個室)

特殊浴室



寝たまま、座ったまま入浴できます。

家族室



ご家族が休憩できます。

季節の
飾りつけや
イベントも



病棟の見学ができます

平日14時～16時のあいだ、病棟の見学ができます。
お気軽にお問い合わせください。

担当：7階西病棟(緩和ケア病棟)

☎ 072-847-2821(代表) 受付時間：平日9時～16時

※見学日を調整しますので、必ず事前にご連絡ください。

緩和ケア病棟に入院するには・・・

まず「緩和ケア外来」での面談が必要です。
くわしくはお問い合わせください。

担当：医療相談・連携室 緩和ケア担当

☎ 072-847-2821(代表) 受付時間：平日8時30分～17時

進化する 糖尿病センター

～ライフステージ特有の 糖尿病とは～

ライフステージ特有の糖尿病は、
まだ社会に十分認知されているとは
言えません。当センターでは、多職種による
チーム医療を通じて、すべての世代に先進的・専門的な糖尿病治療を提供します。



“妊娠糖尿病”をご存じですか？

妊娠中に血糖値が高くなる糖代謝異常には、「**妊娠糖尿病**」「**妊娠中の明らかな糖尿病**」と「**糖尿病合併妊娠**」があります。妊娠するとインスリンの効きが悪くなり、特に妊娠後半に血糖値が上がりやすくなります。妊娠中のお母さん(母体)が高血糖になると、母体だけでなく赤ちゃんにも合併症をもたらすため治療が必要です。妊娠糖尿病を適切に治療することで、巨大児や妊娠高血圧症候群の合併が防げ、帝王切開が減少するという研究結果があります。**妊娠糖尿病と診断されたら、分割食を中心とした食事療法・血糖自己測定・必要に応じたインスリン治療を行い、血糖値を健常妊婦さんに近い状態にコントロール**することが大切です。安心安全なお産のために当院産婦人科と協力して妊婦さんを支えます。

“小児・思春期糖尿病” への理解を深めたい

小児・思春期に発症する糖尿病は、成人の糖尿病とは異なります。小児・思春期糖尿病は、インスリンの絶対的な欠乏から生涯インスリン注射を必要とする「**1型糖尿病**」で発症する場合もあれば、肥満を背景に食事・運動療法による生活習慣の改善が基本となる「**2型糖尿病**」で発症する場合もあります。**小児・思春期糖尿病の患者さんは、糖尿病を持ちながら成長・発達し、糖尿病を持った成人となります。従って血糖コントロールだけにとらわれず、健やかな心理状態や成長・発達にも配慮した支援が必要です。**できる限り制限されない家庭生活・学校生活を送れるよう配慮します。当院小児科と協力しながら、多職種による専門的な糖尿病チーム医療で彼らの健やかな成長を支えます。

「糖尿病センターだより」をご存じですか？

“主任部長と素敵な仲間たちの日常診療にまつわるあれこれ”をテーマに、毎月1回皆様に心温まる「糖尿病センターだより」をお届けしています。2024年3月から始まり2周年を迎えました。皆様のご感想をお聞かせいただくと幸いです。

糖尿病センターだより

<https://hirakatacity-hp.osaka.jp/departments/diabetes/diabetesletter>



柴崎 早枝子 医師
糖尿病・内分泌内科(糖尿病センター)
主任部長 兼 糖尿病センター長

最新の糖尿病治療をご希望の患者さんは、かかりつけ医にご相談の上、
本院「糖尿病センター」を受診して下さい。

採血された 血液はどうやって 検査されるの？

中央検査科は検体検査部門、生理機能検査部門、病理検査部門の3部門からなり様々な検査を行っています。検体検査は24時間365日検査可能な体制を整えており、枚方市をはじめ北河内の皆様に質の高い検査医療が提供できるよう取り組んでいます。

STEP 1

検査の内容に応じて様々な採血管に採血をします。採血された検体はすべて検体検査室に届き、臨床検査技師が検査を行います。1日約500件の検査を行います。



STEP 2



採血量や性状等、検査に適した検体かどうか確認します。検査項目により遠心分離という操作を加え、血液成分の分離を行います。

STEP 3

検体検査室には様々な検査機器があり、実施可能な検査項目がそれぞれ異なります。検体を検査機器にセットし30分程度で結果がでます。



STEP 4



検査結果が正しい値かどうか、異常値はないか確認後カルテに反映します。生命に危険が及ぶ異常値を認めた場合は医師に電話で報告しています。

市立ひらかた病院の病院食紹介

MENU お祝膳

- 赤飯
- ステーキ
- サラダ
- スープ
- 果物の盛り合わせ

本院のお食事は、一般食（常食・小児食等）、治療食（糖尿病・腎臓病等）だけではなく、食形態等も考慮し、安全でおいしく召し上がっていただけるよう努めています。また、出産後のお祝膳や季節に応じた行事食、常食においては週1回の選択食の実施にも取り組んでいます。

